

就職、結婚、出産、育児…

学生、人生設計考える

東北福祉大でセミナー 380人受講

結婚や妊娠、出産などの知識を学び、今後の人生設計に役立ててもらおうと、宮城県と河北新報社が進める「大学生のためのライフプランセミナー」の講義が、仙台市青葉区の東北福祉大

であった。同大社会福祉学科の1年生約380人が受講した。

第1部は、スズキ記念病院(岩沼市)の星和彦名誉院長が「生命(いのち)を考える」をテーマに講義。生殖補助医療技術が進歩する一方、女性の晩婚化、晩産化が進む実情などを紹介。「体外受精を行っても母親の年齢が上がるほど妊娠率は下がる。妊娠、出産には適した年齢があることを若いうちから知ってほしい」と強調した。

第2部は、育児をしながら正社員として働く3人の女性が登壇。仕事と子育てを両立させる大変さややりがい、学生時代に思い描いていた将来とのギャップなどを紹介した。

授業に参加した大橋理奈さん(18)は「35歳から出産のリスクが一気に高まることに驚いた。踏まえた上で将来を考えていきたい」と話した。

「生命を考える」をテーマに進められた講義
10日、東北福祉大

